

<第1号議案>

事業報告書

(第10期)

自 令和4年(2022年)4月 1日

至 令和5年(2023年)3月31日

一般社団法人 市民エネルギー生駒

(生駒市北田原町1548番地1)

(第7期)

自 令和4年(2022年)4月 1日

至 令和5年(2023年)3月31日

合同会社 生駒市民共同発電所

(生駒市北田原町1548番地1)

*1～3号機は市民エネルギー生駒・4～5号機は生駒市民共同発電所の事業となっています。

1 発電実績

令和4年度（2022年度）は、これまでに設置した5発電所が順調に稼働、発電実績は天候にも恵まれ予想を上回る結果となりました。

日射量：平年比113%、発電実績：前年比103%、実行計画比113%

<2022年度発電実績>

kWh

発電所号機	発電実績	実行計画	実績/計画
1号機	61,046	54,600	112
2号機	71,599	61,849	116
3号機	68,659	61,221	112
4号機	100,683	88,999	113
5号機	107,153	96,748	111
合計	409,140	363,417	113

実行計画（これまでの発電実績を基に作成した計画で当初計画より約10%高い値
4・5号機は当初計画と同じ）

2 売電実績

発電量に伴い売電金額も増加する結果となりました。

計画値よりも1,305千円上回る売電収入になり2022年度業績に計画比113%と貢献しました。

売電実績金額合計は3・4月月次金額調整により決算金額とは異なります。

<令和4年度（2022年度）活動実績>

1 市民共同発電所の安定操業及び収益の有効活用

① 市民共同発電所の安定操業

2年前より続く新型コロナ、及び昨年2月から始まったロシアのウクライナ侵攻により、全世界が震撼、経済への影響を強めている中ですが、当法人への影響はほとんどなく、前記発電実績の通り、天候にも恵まれタイムリーなメンテナンスにて安定操業を続ける事に注力した結果、1～5号機全て計画を大きく上回る実績を残す事が出来ました。

② 収益の地域還元

その結果、出資者への安定配当を維持すると共に、生駒市への固定資産税の支払い、環境イベントとして市民に定着した「くらしのブンカサイ（旧名称：SDGs環境フェスティバル）」での実行委員を担当すると共に、ソーラーカー組立教室に資金援助しました。

③ 市民共同発電所5号機の大いなる貢献

昨年度FIT（固定価格買取制度）に依存しない5号機を、生駒市介護老人保健施設やすらぎの杜「優楽」南法面に、生駒市及び指定管理者の協力を得て設置しましたが、エネルギー価格高騰の中、燃料調整費・再エネ付加金不要の自家消費型、地産地消再生可能エネルギーとして大きく貢献しました。

2 市民共同発電所6号機建設の検討

環境省脱炭素先行地域への応募検討の中で、衛生社クルクル館への太陽光発電システムの設置を市民共同発電所6号機として実施する案が出され、設置可能容量及び屋根への設置可能性について検討を行い、約130kWの太陽電池が設置できることを確認しました。又このシステムはプラごみEV収集車への充電及び余剰発電量の隣接工場への供給システムも含め次年度に建設することを検討しました。

3 生駒市、いこま市民パワー（ICP）との連携強化

① 環境省・脱炭素先行地域プロジェクトへの参画

環境省が進める脱炭素先行地域100自治体への選定を目指す生駒市に協力し共同提案者4者の一つとして市民が参画する提案書を作成しました。

(2/17提出)

② 地産再生可能エネルギー構成比の拡大及びPR拡散

◆ICPへの電力供給5年目を迎え、ICPが進める地産再生可能エネルギー獲得に対し、市民共同発電所5号機からの安定供給を実施しました。

◆地産のバイオマス発電を担当しているTJグループHDが、今年度ICPに出

資することとなり、それに伴い当法人も 60 万円増資し出資総額 120 万円となりました。(構成比 8%)

- ③ 地消一般家庭への電力供給及び地産 FIT 切れ太陽光発電量の買い取り支援
異常なエネルギー高騰に伴い積極的な推進は控え、住宅用 FIT 切れ太陽光発電電力の買い取りに対し、経営・営業戦略面での全面的な支援を実施しました。(CEI 出資者 16 名に対し感謝を込め 2 円/kWh 特別支援)
- ④ FIT 終了後の対応セミナー及びエネルギー相談窓口対応
コロナの影響もあり積極的な推進に取り組みませんでした。
- ⑤ 生駒市が推進する環境会議への参加
市民を代表する環境団体として、学識経験者・民間企業と共に生駒市の取り組む環境事業及び課題について意見具申・構築に向け尽力しました。
 - ◆第 1 回生駒市環境審議会(1/19)
「生駒市の環境」について
 - ◆環境モデル都市&SDGs 未来都市推進協議会(1/31)
「環境モデル都市令和 3 年度取組の評価、令和 4 年度取組進捗状況確認」

4 地球温暖化防止啓発活動の展開

- ① 出資者報告会
新型コロナ拡大に伴い、2022 年度は中止し、2023 年度 CEI 設立 10 周年ビッグイベントとして準備を進め、その一環として斎藤幸平氏の招待に成功しました。2023 年 10 月 28 日(土) たけまるホールにて開催予定。
- ② 講演会&報告会
新型コロナウイルスの影響にて入場者限定の取組となりました。
 - ◆11/20: 北コミュニティセンター (はばたきホール) 約 300 名
◇くらしのブンカサイ参加 ソーラーカー組立教室 (参加者 32 名)
 - ◆2/5: 北コミュニティセンター 約 360 名
◇ららまつり参加 (会員のみ) 小ホールにて講演 (CEI 10 年のあゆみ)
 - ◆CEI 取組プレゼンテーション活動
 - ・「匠の環」ポスター展示プレゼン 約 100 名 11/15(奈良県文化会館)
 - ・原発ゼロ/3.11 被災者支援奈良の集いにてスピーチ 約 350 名
3/11(JR 奈良駅前)
 - ◆メディア等への掲載
 - ・SDGs 取組団体として紹介、環境大臣賞受賞 (いこまち 5・2 月号)
 - ・「エネルギーの地産地消」を合言葉として、再生可能エネルギーを進める 2013 年に立ち上げた市民団体として紹介される (読売新聞 6/30)

- ・斎藤幸平東京大学大学院准教授著書「ぼくはウーバーで捻挫し、山でシカと闘い水俣で泣いた」に、市民組織として取り上げられる。 (11/2 発刊図書)
 - ・第10回環境省グッドライフアワードにて環境大臣賞優秀賞受賞
(朝日新聞 12/25・読売新聞 12/24)
 - ・NHK フォーラム「脱炭素地域からの挑戦」にて地産地消を目指す生駒市の市民団体として市民共同発電所映像と共に放映される (NHKEテレ 2/18)
 - ・脱炭素社会に向け率先して仕掛ける自治体や市民の取り上げを「未来を変える」と題したテーマにおいて京都大学諸富教授からの紹介にて取材掲載される
(神戸新聞 3/6)
- ③ PPA (PowerPurchaseAgreement) 「太陽光発電無料設置電力購入契約」での太陽光発電システムの一般家庭及び事業所等への導入検証について検討しましたが実施には至りませんでした。
- ④ エコネットいこまとの協調連携
- ◆共催でのソーラーカー組立教室開催 (くらしのブンカサイにて)
 - ◆おひさまエネルギーは中止しました。

5 広報活動への取組強化

①会社案内リーフレットの作成

会社案内リーフレットを外部団体の協力も受け10月に完成しました。(500部) 純粋なブルーカラーと共にわかりやすいシンプルな内容にまとめ評価の高いリーフレットとなりました。

②2022年度/第10回環境省 GLA への再挑戦

2016年に続き二度目の環境大臣賞優秀賞を受賞。最優秀賞は逃しましたが応募総数229団体中第2位となり、2022年12月3日東京でのプレゼンテーション&表彰式に代表2名が参加しました。全国から注目を浴びメディアにも多く取り上げられ、評価を頂くと共に大きな自信となりました。

③2022年度/経済産業省新エネ大賞への再挑戦は、②に注力し未応募でした。

6 技術開発と実証試験 (自家消費型太陽光発電設備の導入検討)

マイクログリッドタイインバーターシステム実証実験を兼ね設置、その有効性を検討しました。

340W 太陽電池×2枚をガレージ上に設置し1kWのマイクログリッドタイインバーターに接続、それをACコンセントに接続自家消費するシステムをDIYで設置して、家庭での電力消費低減の効果を実証する試験を11ヶ月間行った。

11ヶ月間で前年比25千円(26%)の電力費が削減できました。

(内、12%分が太陽光発電、14%分がその他省エネ対策による)

今後、太陽光発電の正味貢献量を明確にすると共に低価格蓄電池システムの導入評価を実施、このシステムの有効性をアピールし太陽光発電未設置の一般家庭への導入を図っていききたい。

7 大阪・関西万国博覧会を視野に入れた活動

3年後のヒントをつかむため、講演会への参加により市場からの情報収集に向け取り組みました。

・脱炭素革命への挑戦 NHK エンタープライズ 堅達京子 (2/10)

8 組織強化及び日々の取組

10年目を迎えるに当たり、組織体制表を作成、各部毎の年間対応業務を資料化し複数人にて対応出来る様、共有ファイルを作成しました。

経理部、 企画部、 技術部、 広報部、 法務部